

授業科目 日常生活活動学実習 II (生活技術代償法)

【担当教員名】 今西 里佳		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 脳血管障害や慢性関節リウマチによって生活動作や行動に支障をきたした対象者の ADL 自立促進や介助量を軽減させるための評価、治療・指導方法を習得する					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害や慢性関節リウマチの病態や臨床経過に応じた活動レベルに関心を持ち、積極的に取り組む態度で学ぶことができる 2. 脳血管障害に対する ADL 評価・訓練・指導技術について説明することができる 3. 脳血管障害に対する ADL 訓練・指導法・介助法を模擬的に実施することができる 4. 脳血管障害に対する IADL 評価・訓練・指導技術について説明することができる 5. 脳血管障害における動作自立や介助量軽減のために必要な福祉用具や環境調整を述べることができる 6. 慢性関節リウマチに対する ADL および IADL の評価・訓練・指導技術について説明することができる 7. 慢性関節リウマチに対する ADL 訓練・指導を模擬的に実施することができる 8. 慢性関節リウマチにおける動作自立や関節保護のために必要な福祉用具や環境調整を述べることができる 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳血管障害の ADL 評価 (1)			1～3	講義・演習
2	脳血管障害の ADL 評価 (2)			1～3	講義・演習
3	脳血管障害の ADL 評価・訓練 基本動作 (1)			1～3,5	講義・演習
4	脳血管障害の ADL 評価・訓練 基本動作 (2)			1～3,5	講義・演習
5	脳血管障害の ADL 評価・訓練 吸引 (1)			1～3,5	講義・演習
6	脳血管障害の ADL 評価・訓練 吸引 (2)			1～3,5	講義・演習
7	脳血管障害の ADL 評価・訓練 嚥下・摂食動作			1～3,5	講義・演習
8	脳血管障害の ADL 評価・訓練 排泄動作 (1)			1～3,5	講義・演習
9	脳血管障害の ADL 評価・訓練 排泄動作 (2)			1～3,5	講義・演習
10	脳血管障害の ADL 評価・訓練 衣服着脱動作			1～3,5	講義・演習
11	脳血管障害の ADL 評価・訓練 整容・入浴動作			1～3,5	講義・演習
12	脳血管障害の IADL 評価・訓練 (1)			1,4,5	講義・演習
13	脳血管障害の IADL 評価・訓練 (2)			1,4,5	講義・演習
14	慢性関節リウマチの ADL 評価・訓練 (1)			1,6～8	講義・演習
15	慢性関節リウマチの ADL 評価・訓練 (2)			1,6～8	講義・演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		福祉用具・住環境整備の作業療法	玉垣努編	中央法規	2013・3,800 円＋税
		I・ADL 第3版 作業療法の戦略・戦術・技術	生田宗博編	三輪書店	2012・5,400 円＋税
参考書		新版日常生活活動 (ADL)	伊藤利之、江藤文夫	医歯薬出版株式会社	2010・6,800 円＋税
その他の資料		配布資料			
【評価方法】 出席やレポート提出期日厳守、熟考しながら演習に意欲的に取り組む授業態度を重んじる。 成績は、定期試験結果 70%程度および出席、授業態度、レポート提出 30%程度で総合的に判断する。			【履修上の留意点】 毎回、ジャージなどの動きやすい服装で出席すること。		